

(別紙)

令和6年度障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業（ICT導入事業） 事業報告書

自治体名 千葉県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホジン ナハサカイ
法人名	社会福祉法人 菜の花会
フリガナ	エムエルティ
事業所名	ゆめふる成田
提供サービス（複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択）	
施設入所支援	
職員数（常勤換算数）【「全職員の月間勤務時間数」／「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出（産休・育休、休職は除く）】	
22.7 人	
ICT機器等導入完了日	令和 7年 3月 18日

※行・列の追加は行わないでください。

(1) 事業の実施以前における当該事業所のICT機器等の導入・活用状況

業務内容	ICT機器等の導入・活用状況
支援記録の作成	①ICT機器等を導入していない（紙中心で事務作業を行っている）
職員間の情報伝達・情報共有	②一部、ICT機器等を導入している（紙とICT機器等の両方で事務作業を行っている）
請求業務	②一部、ICT機器等を導入している（紙とICT機器等の両方で事務作業を行っている）
勤怠管理	①ICT機器等を導入していない（紙中心で事務作業を行っている）
シフト表作成	①ICT機器等を導入していない（紙中心で事務作業を行っている）
給与業務	②一部、ICT機器等を導入している（紙とICT機器等の両方で事務作業を行っている）

※「業務内容」に応じ、ICT機器等の導入・活用状況を選択してください。

- ①ICT機器等を導入していない（紙のみで対応）
- ②一部、ICT機器等を導入・活用している（紙とICT機器等で対応）
- ③ICT機器等を導入・活用している（全てICT機器等で対応）

(2) 事業実施によるICT機器等の導入状況

ICT機器等の種別	導入目的	製品名	台数	備考
①パソコン	①作業の迅速化	NECノート型PC VersaPro	6台	
⑤記録・情報共有・請求関連業務ソフト	②情報の共有化	ミスヘルパー	1式	

※「ICT機器等の種別」については次の中から選択し、その種別ごとに導入目的、製品名、台数等を記載してください。

- ・情報端末等・・・①パソコン、②スマートフォン、③タブレット、④インカム
- ・ソフトウェア・・・⑤記録・情報共有・請求関連業務ソフト、⑥勤怠管理・シフト表作成・人事給与関連業務ソフト
- ・通信環境機器・・・⑦Wi-Fi・ルーター
- なお、「⑧その他」を選択した場合には、「備考欄」に、ICT機器等の種別を記載してください。

※「導入目的」については、次の中から特に該当する番号を選択してください。

- ①作業の迅速化（支援記録の作成など）
- ②情報の共有化（職員間の情報伝達・情報共有など）
- ③業務の統合化（請求業務、勤怠管理、シフト表作成、給与業務など）
- ④その他
- なお、「④その他」を選択した場合には、「備考欄」に、導入目的を記載してください。

(3) 事業を活用して改善を図った業務におけるICT機器等の導入前後の業務時間、作成文書量の状況

① ICT機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C.1件当たりの 平均処理時間	年間業務時間 D (B×C)	1人あたり 業務時間 (D/業務従事者数)	備 考
		A.ひと月当たり 発生件数	B.年間発生件数 (A×12)				
①支援記録の作成	32 人	1,809 件	21,708 件	7 分	2,533 時間	79 時間	
②職員間の情報伝達・情報共有	32 人	603 件	7,236 件	5 分	603 時間	19 時間	
			0 件		0 時間		
			0 件		0 時間		
			0 件		0 時間		
		2,412 件	28,944 件	12 分	3,136 時間	98 時間	

※「具体的な業務内容」については、①支援記録の作成、②職員間の情報伝達・情報共有、③請求業務、④勤怠管理、⑤シフト表作成、⑥給与業務、⑦その他から選択してください。
なお、「その他」を選択した場合には、「備考欄」に、業務内容を記載してください。

以下の※1及び※2については、ICT機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>A. ひと月当たり発生件数の算出方法

①支援記録の作成 日中活動にて月23日開所だった場合に、18名のご利用者様の記録を作成。また夜間支援で31日開所した場合、入所・短期入所43名の記録を作成。
日中23日×18名＝414件 夜間31日×43名＝1395件 計1809件
②職員間の情報伝達 日中活動引継ぎ23日開所だった場合に、3部門の引継ぎ 夜間支援 日誌4棟夜間、翌朝分 引継ぎ4棟夜間 翌朝分 施設長・医務伝達事項
日中23日×3部門＝69件 夜間支援 日誌31日×4棟×朝夕分2件＝248件 引継ぎ31日×4棟×朝夕分2件＝248 施設長伝達31件 医務・事務伝達事項7件 計603件
<※2>C. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

個別ケース記録を行う時間数として 午前・午後のバイタルや食事記録・個別記録を作成するための時間として 1人あたり7分を見込んだ
情報伝達の記録を作成する時間と、それを確認する時間として 1件あたり5分を見込んだ

② ICT機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C.1件当たりの 平均処理時間	年間業務時間 D (B×C)	1人あたり 業務時間 (D/業務従事者数)	備 考
		A.ひと月当たり 発生件数	B.年間発生件数 (A×12)				
①支援記録の作成	32 人	1,809 件	21,708 件	6 分	2,171 時間	68 時間	
②職員間の情報伝達・情報共有	32 人	603 件	7,236 件	5 分	603 時間	19 時間	
			0 件		0 時間		
			0 件		0 時間		
			0 件		0 時間		
		2,412 件	28,944 件	11 分	2,774 時間	87 時間	

※「具体的な業務内容」については、①支援記録の作成、②職員間の情報伝達・情報共有、③請求業務、④勤怠管理、⑤シフト表作成、⑥給与業務、⑦その他から選択してください。
なお、「その他」を選択した場合には、「備考欄」に、業務内容を記載してください。

以下の※1及び※2については、ICT機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>A. ひと月当たり発生件数の算出方法

発生件数については、変更無し

<※2>C. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

①個別記録作成について、PCの待ち時間の削減・作業スペースでの記録ができるようになったことから、一件につき1分の削減があったと思われる
②情報共有の仕組みとして、紙ベースからパソコンでの内容確認ができるようになったが、その伝達行為等での時間の削減は確認されなかった

年間業務時間削減率 (%)

11.5%

※以下のICT機器等導入前・後の作成文書量は、該当する文書がある場合に記載してください。

③ ICT機器等導入前の作成文書量

作成文書	作成文書量	
	A.ひと月当たり	B.年間作成文書量 (A×12)
1 支援記録文書	140 ページ	1,680 ページ
		0 ページ
		0 ページ
	140 ページ	1,680 ページ

④ ICT機器等導入後の作成文書量

作成文書	作成文書量	
	A.ひと月当たり	B.年間作成文書量 (A×12)
1 支援記録文書	140 ページ	1,680 ページ
		0 ページ
		0 ページ
	140 ページ	1,680 ページ

年間作成文書削減率 (%)

0.0%

(4) ICT機器等の導入効果

① 事業所におけるICT機器等導入の推進方法

記録ソフトの取り扱いについてのマニュアルを作成。紙で記録していた内容を踏まえながら、使い勝手が良いようにソフト会社と連携を行った。操作方法についての説明会の実施や、施設長・主任への導入についての伝達、質疑などのやり取りをしながら、職員全員がソフトによる記録を残せるようにすることができた。
ソフトの内容を100%理解してのスタートではないため、メインの個別記録の電子化・作業日誌の電子化を目指した。今後実績記録との連動を行い、請求へもつなげるための活用を行っていきたい。

※事業所において、ICT機器等の導入をどのように進めたか（事業所内の推進体制、外部への相談など）を記載してください。

また、事業所にICT機器等の導入にあたり工夫した点、苦労した点がありましたら、その点も記載してください。

②ICT機器等の導入による業務の変化（複数選択可）

情報端末導入による効果
☒ 1 支援記録の作成に要する時間が減った。
☒ 2 支援現場や外出先で支援記録の作成ができるようになった。
☐ 3 インカム等の導入により、職員間の情報伝達や職員の移動負担が軽減した。
☐ 4 利用者の情報を一元管理できるようになった。
☐ 5 その他の効果があった。
☐ 6 効果がなかった。

※「その他の効果があった」を選択した場合には、その内容を記載してください。

--

ソフトウェア導入による効果
☒ 1 支援記録の作成に要する時間が減った。
☒ 2 支援現場や外出先で支援記録の作成ができるようになった。
☒ 3 利用者の情報を一元管理できるようになった。
☐ 4 記録業務、情報共有業務、請求業務を一気通貫で行えるようになった。
☐ 5 勤怠管理、シフト表作成等の業務を一気通貫で行えるようになった。
☐ 6 その他の効果があった。
☐ 7 効果がなかった。

※「その他の効果があった」を選択した場合には、その内容を記載してください。

--

③ICT機器等の導入による業務効率化及び職員の業務負担軽減の状況

これまでパソコンの台数が限られていたことによる弊害がなくなったこと、また各作業科や支援室へのPCの導入により、残業での個別ケースの記録を行うことが減った。

また、サバーを介して記録を行うことができる為、違う事業所で兼務している場合であっても、別の場所で担当ご利用者様の記録を行うことができるようになった。

敷地が広く移動に時間がかかるが、情報がどこにいても見ることができると、職員の負担軽減につながっている。

※ICT機器等の導入により、どのような業務改善ができ、どのような業務効率化が図られたのか、また、職員の業務負担軽減にどのような効果があったのか、具体的に記載してください。

④ICT機器等の導入による業務効率化で確保できた業務時間の活用方法

記録を残すための残業時間の削減による効率化

記録を作業中や支援の合間でも行うことができたため、よりご利用者様との支援を行う時間の確保につながっている。

※ICT機器等の導入により、業務効率化で確保できた職員の業務時間について、他のどのような業務に活用できたかなど、具体的に記載してください。

(5) ICT機器等の導入による費用面での効果

ICT機器等の導入による費用の縮減	無
-------------------	---

※ICT機器等の導入による費用の縮減が「有」の場合、以下についても回答をお願いします。

縮減額（円）	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当（※1）	
サービスの質の向上に係る取組への充当（※2）	

（※1）「その他職場環境の改善への充当」の内容について、具体的に記載してください。

--

（※2）「サービスの質の向上に係る取組への充当」の内容について、具体的に記載してください。

--